

太田フレックス高等学校

日本語指導が必要な生徒を支援する体制づくりの試み

《本校の授業における日本語指導について》

令和5年度、6年度と2年にわたり「県立高校等における日本語指導の体制づくり」の「モデル校」として、県教育委員会と協力し、日本語指導のカリキュラムや指導体制の定着に向けた実践をしてきました。

本校における「日本語指導」の授業は大きく2つに分かれます。「特別の教育課程による指導」と「学校設定科目による指導」です。

日本語指導が必要な生徒が多く在籍する本校では、モデル校の指定を受けて、この「特別の教育課程による指導」と「学校設定科目による指導」の、両方の指導を支える体制づくりについて実践研究を進めています。

① 特別の教育課程による個別指導

- ・本校は前後期の2学期制で、半期の単位認定も可能なことから、令和5年度の後期から実施しました。
- ・対象生徒は夏休みの三者面談を通して決定し、指導を開始しました。対象生徒は令和5年度に5名、6年度は6名です。授業は、教員と日本語指導支援員（2～3名）によるチームティーチングで行っています。



② 学校設定科目による指導

- ・令和6年度から、学校設定教科「共生」を設け、その教科のもとに学校設定科目「日本語Ⅰ～Ⅲ」を設定しました。
- ・令和6年度から、「日本語Ⅰ」の講座を週に2コマ開講しており、それぞれ14名、13名の生徒が受講中です。授業は、教員と日本語指導支援員（3～5名）によるチームティーチングで行っています。

